

海軍公報

(部内限) 第四千二百九十九號

海軍大臣官房

昭和十八年一月二十五日(月)

○ 令 達

官房需機密第五一號

大東亞戰爭中海軍軍需部長ハ艦營需品定額表ノ制定ナ
キ海軍徵備船舶ニ於テ船舶固有ノ物品ノ補充ヲ願出タ
ル時ハ入手困難ナリト認ムル場合ニ限リ艦營需品ヲ當
該船主ニ供給スルコトヲ得之ガ詳細ニ關シテハ海軍省
軍需局長及海軍省經理局長ヲシテ通牒セシム

昭和十八年一月二十二日

海軍大臣

官房經第一〇〇號

昭和十九年一月二十六日

當分ノ間海軍戰時特例給與規則第一條ニ掲グル地域ニ
在ル海軍ノ部隊其ノ他ノ各部ニ於テ使役中ノ現地民公
務爲傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ又ハ死亡シタル場合
ニ於テ扶助令ヲ準用ス
所轄長官ノ規定ニ依リ扶助金ノ支給ヲ要スルトキハ
療治料ヲ除キ雇員傭人扶助金支給細則別表中傭人扶助

海軍公報(部内限) 第四千二百九十九號

昭和十八年一月二十五日

七一

令ニ依ルモノニ付定メタル給額ノ二分ノ一以內ニ於テ
所屬長官ノ認許ヲ受ケ之ヲ支給ス

前項ノ外扶助金支給ニ付テハ雇員傭人扶助金支給細則
ヲ準用ス

昭和十八年一月二十三日

海軍大臣

官房需第一四號

昭和十七年官房第五七七九號中左ノ通改正ス

昭和十八年一月二十三日

海軍大臣

地域ノ部「印度支那」ノ前ニ左ノ一項ヲ加フ
臺灣、支那、海南島、新南群島

○ 通 牒

官房經第九六號

昭和十八年一月二十二日

海軍省副官

關係各廳長殿

第一ホテル特約ニ關スル件通知

今般海軍省經理局ト第一ホテル(東京市芝區新橋一ノ三ニ新橋驛隣)トノ間ニ特約セラレ海軍高等官同待遇者(家族ヲ含ム)ノ宿泊ニ關シ優先的ニ之ヲ取扱フコトニ相成候ニ付テハ左記御含ミノ上可然利用相成度追テ同ホテル案内ハ各鎮守府警備府副官、各地水交社等ニ送付致置候

一 申込要領

宿泊申込ノ場合ハ宿泊スベキ日ノ前々日(拾名以上取纏メ申込ム場合ハ一週間前)正午迄ニ經理局第三課庶務係宛郵便、電報又ハ電話(海軍省構内二四七)等ニ依リ官氏名、室ノ區分、宿泊豫定日數等ヲ、取消ノ場合ハ宿泊スベキ日ノ前日迄ニ其ノ旨通知スルモノトス
右ニ依ルコト能ハザルトキハ直接本人ヨリホテル宛申込又ハ取消ヲ爲スト共ニ經理局第三課宛其ノ旨通知スルコト但シ此ノ場合ニ於テハ室ノ豫約ハ必ズシテ融通シ得ザル場合アルベシ

二 室料

區分	略語	室料	記	事
一人室 洗面所付	イ	三、七〇		
一人室 浴室付	ロ	四、五〇		
二人室 洗面所付	ハ	六、五〇		
二人室 浴室付	ニ	九、〇〇		
二人室 應接室付 浴室付	ホ	九、〇〇	大型寢臺	
三人室 同 右	ヘ	一一、〇〇	三人ノ場合	一四、〇〇
一人和室 洗面所付	ト	四、五〇		
二人和室 化粧室付	タ	九、〇〇		

註

(イ) 室料ノ計算ハ午前(受付ハ午前六時半開始)投宿ノ場合ハ翌日當該投宿時刻迄ヲ、午後投宿ノ場合ハ翌日正午迄ヲ一泊トシ之ヲ超ユル場合ハ其ノ時間及時刻ニ應ジ半額又ハ全額ヲ加算ス

(ロ) 略語ハ第一ホテルノ電報略語ナルニ付直接同ホテル宛申込ノ場合モ利用差支ナシ

三 食事

定食

朝 和食 七〇錢

晝 洋食 一〇圓

夕 洋食 二圓

支拂 洋食 二圓五〇錢

室料、食事代等ハ直接同ホテルニ支拂フコト

官房軍第八四號

昭和十八年一月二十三日

海軍次官

各鎮守府 大湊、大阪警備府 司令長官殿

法務長打合會議開催ニ關スル件申進

法務長打合會議左記ニ依リ開催相成候條參集セシメラレ度

追テ所要旅費ハ請求ヲ俟テ配付セラレ候

記

一 開催期日 昭和十八年二月十二日、十三日

二 場所 海軍省法務局

三 參集者 各鎮守府法務長、大湊、大阪各警備府 法務長

海軍公報(部内限)第四千二百九十九號

昭和十八年一月二十五日

七三

四 打合事項 初任法務科士官ノ實務修習ニ關スル事項、事件處理促進ニ關スル事項

海人機密第一號ノ三一

昭和十八年一月二十三日

内令撰 要登載

海軍省人事局長 海軍省經理局長

各鎮守府參謀長殿

飛行機新搭乗員特別教育實施ノ下士官及兵ノ身上取扱及諸給與ニ關スル件申進

昭和十七年官房機密第一四八一六號ノ規程ニ依リ飛行機新搭乗員特別教育ヲ受クベキ大型攻撃機、飛行艇又ハ水上戦闘機ノ搭乗員(搭乗整備員ヲ含ム)ハ夫々特別教育擔任ノ海軍航空隊ニ入隊セシメ之ガ身上取扱及諸給與ニ關シテハ練習生ニ準ジ處理スル義ト了知相成度

追テ昭和十五年海人機密第一號ノ一四〇申進大型機新搭乗員特別教育實施ノ下士官及兵ノ身上取扱ニ關スル件ハ廢止セラレ候

軍需機密第四四號

昭和十八年一月二十二日

海軍省軍需局長
海軍省經理局長

關係各廳長殿

海軍徵備船舶ニ對シ艦營需品ノ供給ニ關スル件通牒

官房需機密第五一號ニヨリ海軍徵備船舶ニ艦營需品ヲ供給スル場合ハ別ニ規定アルモノノ外左記ニ依リ處理相成度

追テ昭和十五年十一月三十日軍需第一八一號ハ之ヲ廢止ス

記

- 一 艦營需品ハ總テ有償供給トシテ整理スルモノトス
- 二 前號ニ依リ艦營需品ヲ供給シタル軍需部ハ各船毎ニ一箇月分ヲ取纏メ供給集計表(別紙様式)五通ヲ作製シ一通ヲ海軍省軍需局ニ、四通ヲ備船契約廳ニ送付スルモノトス
- 三 備船契約廳ハ前號ノ供給集計表ニ依リ供給代價ヲ契約代價ヨリ差引クモノトス
- 四 供給シタル艦營需品ノ單價ハ時價ニ依リ各海軍軍需部ニ於テ適宜之ヲ定ムルモノトス

(別紙添)

艦本第八號ノ二〇八

昭和十八年一月十九日

海軍省經理局
海軍艦政本部
海軍航空本部

關係各廳長殿

受依託工事豫算所要見込額並ニ年度末ニ於ケル豫算増減取扱廢止ノ件通牒

昭和十二年三月二十七日艦本第三七八四號首題通牒ハ廢止ス

(參照) 艦政普法規集三〇四頁

○通牒

(各通) 稅關鑑査官補兼 大谷 正男
稅關事務官補 大藏屬 千葉 俊郎

第二南遣艦隊司令部附ヲ免ス(海軍省)

軍令部部長海軍大佐 小島 秀雄

兼臨時歐洲戰爭軍事調查部部長ヲ命ス(軍令部)

軍令部出仕海軍少佐 千早 正隆

第二部勤務ヲ命ス(同)

驅逐艦文月 海軍非新中尉 伊藤 澤美
 同 阜月 海軍非新少尉 吉里 三十四
 同 長月 同 矢部 輝夫
 各頭書ニ要スル給與及其ノ他ノ經費支拂ノ爲艦隊經費臨時分任出納官吏ヲ命ス(支拂)支出官 海軍省經理局長)

○雜款

○郵便物發送先
 宛先ハ下段ノ通記載ノコト但シ()内ハ記載セザルコト

一 長良 橫須賀局氣付(第十軍用郵便所經由)長良

一 第十九設警隊第二班 橫須賀局氣付「ウ壹〇五」ウ貳〇壹「ウ貳〇九」
 吳局氣付(第二十六軍用郵便所經由)飛隼丸
 橫須賀局氣付「ウ壹貳〇」ウ壹九貳「ウ貳壹四」

一 飛隼丸 吳局氣付(第二十八軍用郵便所經由)億洋丸司令部

一 第十二防空隊

一 第二砲艦隊

一 特設運送船日榮丸 橫須賀局氣付(第十軍用郵便所經由)日榮丸
 一月二十八日迄ニ到達見込ノモノ
 一 愛國丸 佐世保局氣付(第三軍用郵便所經由)愛國丸

一 伊百六十五潛、伊百六十二潛 吳局氣付(第二十六軍用郵便所經由)伊百六十五潛、伊百六十二潛

出水及指宿海軍航空隊(假稱)設立準備事務所宛郵便物ハ自今鹿兒島縣出水郡出水町海軍市村大佐事務所宛發送相成度

○書類發送先
 當隊宛郵便物ハ自今左記ニ依リ發送相成度、尙當隊ハ分離行動多キニ付隊、司令宛ニシテ各艇ヘモ關係アルモノハ寫ヲ直接各艇ヘ送付相成度

記
 司令、主計長宛 第五號掃海艇
 隊機關長宛 第四號掃海艇
 軍醫長宛 第三號掃海艇
 (第一掃海隊)

○取消

海軍省 陸軍省 航空隊 第二十五日

1945

昭和十七年八月一日附公報(部内限)辭令欄八二七頁
上段五行目「小野木長次郎」ノ、同年十二月一日附公
報(部内限)辭令欄一二六〇頁下段十二行目「澁谷
剛」ノ辭令ハ孰モ取消
○本日普通公報發行セズ

海軍公報 (部内限) 第四千三百號

昭和十八年一月二十六日(火)
海軍大臣官房

○令 達

官房艦機密第三號ノ五

昭和十八年一月十六日

海軍大臣

各鎮守府司令長官
各警備府(除大阪)司令長官 殿

兵器簿ノ件通達

各艦船部隊學校兵器簿機雷長主管ノ部中左記ノ通改正
ス 記

改正個所	品 名	改正事項
九五式爆雷 補用品ノ部	導火藥筒用間坐 甲	常用定數「三〇 個」ヲ「九〇個」 ニ改ム

○通 牒

海人第一號ノ二二

昭和十八年一月二十三日

内令提
要登載

關係廳長殿

海軍省人事局長

航空勤務ニ關スル件申進

特設航空基地隊職員又ハ航空隊内ニ置カレタル特設魚雷調製班ノ職員トシテ服務中ノ日數ハ服役期間及停年計算規則第六條第一號ノ規定ニ準ジ航空勤務ト爲スコトニ定メラレ候

追テ履歷書(表)ニハ「航空勤務」タルコトヲ明記シ海軍准士官以上履歷書及身上取扱規則第七條又ハ海軍下士官兵身上取扱規則第八條ノ規定ニ依リ處理相成度

○辭 令

伊規須勝樹

海南警備府ニ於ケル業務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス(昭和十七年海軍省)

横溝末吉

海軍艦政本部ニ於ケル業務囑託ヲ解ク

海軍公報(部内限) 第四千三百號

昭和十八年一月二十六日

七七

(各通)

堀江 禮三郎
岩間 長太郎
鈴木 源吾
岩田 武夫

第二南遣艦隊ニ於ケル事務囑託ヲ解ク(以上昭和十七年
増訂第七号)

まがね丸二等機關士 大林 定太郎

自今報酬年額千貳拾圓ヲ給ス

南洋廳熱帯産業研究所技師 田川 利三郎

ニューギニア民政府ニ於ケル事務ヲ囑託ス(以上昭和十七年
増訂第七号)

(各通)

氣象技師 金家 眞文

父島海軍航空隊ニ於ケル業務ヲ囑託シ報酬年額貳百

圓ヲ贈與ス(以上昭和十七年
増訂第七号)

(各通)

時光 要
伊賀 忠博
菊澤 隆尙
後藤 脩吉
藤井 清信
金子 宜雄
伊藤 幸憲

海南海軍特務部ニ於ケル業務ヲ囑託シ部内限奏任官
待遇トス
北海道廳技師 石原 供三

海軍省事務ヲ囑託ス(以上昭和十七年
増訂第七号)

佐々木 靖

佐世保海軍病院ニ於ケル業務囑託ヲ解ク

枝吉 正保

第二遣支艦隊ニ於ケル業務囑託ヲ解ク(以上昭和十七年
増訂第七号)

(各通)

(各通)

鷺見 秀夫
杉田 春海
塩田 一夫
前川 與惣
遠藤 圭一郎
杵木 幹雄

第一南遣艦隊ニ於ケル業務ヲ囑託シ部内限奏任官待
遇トス(以上昭和十七年
増訂第七号)

小杉 方也

南西方面艦隊民政府ニ於ケル事務ヲ囑託シ部内限奏
任官待遇トス

海軍省事務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス
川淵 龍彦

海軍省事務ヲ囑託シ部内限判任官待遇トス
内野 莊衛

(各通)
細井 吉春
秋本 陸二
春山 作太郎
精山 洋一

海軍省事務ヲ囑託ス
川村 貫治

海軍經理學校珠算教授囑託
自今報酬ヲ給セス(以上^{昭和十七年}同)

品川 實

第八海軍建設部ニ於ケル事務ヲ囑託ス
但シ報酬年額千六百五拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス(昭和十七年同)

我妻 俊雄
ニユーギニア民政府ニ於ケル事務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス
石崎 又市

第十一特別工作部ニ於ケル業務囑託ヲ解ク
篠田 亀久三

海軍航空本部ニ於ケル業務ヲ囑託ス

但シ報酬年額千八百貳拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス(以上^{昭和十七年}同)

第二南遣艦隊ニ於ケル業務囑託ヲ解ク
風常 正夫

海軍航空技術廠ニ於ケル海軍共濟組合醫務業務囑託ヲ解キ第二海軍航空廠ニ於ケル海軍共濟組合醫務業務ヲ囑託ス
巨田 泰信

但シ報酬年額貳千百拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス(以上^{昭和十七年}同)

前田 隆

第二南遣艦隊ニ於ケル事務ヲ囑託ス
但シ報酬年額千參百圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス(昭和十七年同)

(各通)
馬場 弘
大山 俊雄
平山 常吉

ニユーギニア民政府ニ於ケル事務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス
諏訪 健次郎

第八海軍建設部ニ於ケル事務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス

海軍公報(部内限)第四百三百號 昭和十八年一月二十六日

(各通)

山田 亮吉
武田 信
増淵 吉長
原 浩

ニューギニア民政府ニ於ケル事務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス

千八百貳拾圓

丸岡 正文

(各通)

貳千百五拾圓

鯨島 祐保
遠山 親文

第八海軍建設部ニ於ケル事務ヲ囑託ス

但シ報酬年額(各頭書ノ通)ヲ給シ部内限奏任官待遇トス

大野 藏六郎

佐世保地方海軍運輸部ニ於ケル事務ヲ囑託ヲ解ク

參千圓

國井 實

(各通)

貳千拾圓

鳥居 春之助
奥村 潤一

ニューギニア民政府ニ於ケル事務ヲ囑託ス

但シ報酬年額(各頭書ノ通)ヲ給シ部内限奏任官待遇トス

大原 武夫

第八海軍建設部ニ於ケル醫療業務ヲ囑託ス(昭和十七年十一月二十七日)

但シ報酬年額貳千百拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス(以上昭和十七年十一月二十七日同)

小久保 龍

室蘭地方海軍運輸部ニ於ケル業務ヲ囑託ヲ解ク

南 直 讓

支那方面艦隊ニ於ケル事務ヲ囑託ヲ解ク(以上昭和十七年十一月二十七日同)

日野 公輝

ニューギニア民政府ニ於ケル事務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス

澤田 勇藏

(各通)

鴻野 五六

第八海軍建設部ニ於ケル事務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス

立川 立夫

ニューギニア民政府ニ於ケル事務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス(以上昭和十七年十一月二十七日同)

水田 一郎

兼第一南遣艦隊司令部附ヲ免ス(以上昭和十七年十一月二十七日同)

氣象技師 守田 康太郎

第三南遣艦隊ニ於ケル事務ヲ囑託ヲ解ク(以上昭和十七年十一月二十七日同)

大倉 喜六郎

海軍省事務ヲ囑託ス(十、五、同) 企畫院技師 西村 慶造

海南海軍建築部ニ於ケル醫療業務ヲ囑託ス 吉住 義高

但シ報酬年額千八百貳拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス(十、五、同)

防備關係調査研究委員會第三分科會委員ヲ命ス 海軍中佐 三田 國雄

同 鈴木 榮二郎

防備關係調査研究委員會第三分科會委員ヲ免ス 同 大須賀 秀一

船舶海難事故處理委員會(幹事)ヲ命ス 今村 拓

水路部ニ於ケル氣象事務ヲ囑託ス

但シ報酬年額千參百圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス 吉原 昇

海軍技術研究所ニ於ケル研究業務ヲ囑託ス

但シ報酬年額貳百圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス 本吉谷市太郎

海軍省事務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス

千參百貳拾圓 若崎 秀雄

第二南遣艦隊ニ於ケル業務囑託ヲ解キ海軍省南方政務部ニ於ケル業務ヲ囑託ス

但シ報酬年額(各頭書ノ通)ヲ給シ部内限奏任官待遇トス 久保寺 徳次

支那方面艦隊ニ於ケル事務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス 臺北帝國大學教授 下條 久馬一

海軍警備府ニ於ケル事務囑託ヲ解ク 海軍警備府附ヲ免ス

海南海軍特務部ニ於ケル事務ヲ囑託ス 北海道廳技師 安藝 眞孝

大湊海軍建築部ニ於ケル土木業務ヲ囑託ス 海南警備府齒科治療業務囑託 佐々 良

横須賀第一海兵團齒科治療業務ヲ囑託ス

但シ報酬年額千四百七拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス

大湊警備府事務囑託 三井田 清彌

自今報酬年額千六百五拾圓ヲ給ス(以上十、五、同)

海軍公報(部内限)第四千三百號 昭和十八年一月二十六日

海軍少將 山口 次平

海軍規格審議會議員ヲ命ス

能率増進對策調査委員會委員ヲ命ス

海軍武功調査委員ヲ命ス

軍港都市調査委員會委員ヲ命ス

海軍大佐 山本 親雄

海軍武功調査委員ヲ命ス

燃料政策調査委員會委員ヲ命ス

軍港要港勢力標準調査委員會委員ヲ命ス

防備關係調査研究委員會一般委員ヲ命ス

同 長 澤 浩

海軍學生銓衡委員ヲ命ス

海軍武功調査委員ヲ命ス

支那事變從軍記章授與調査委員ヲ命ス

潜水艦調査委員會委員ヲ命ス(以上三項同)

○ 雜 款

○書類發送先

當分ノ間當隊宛書類ニシテ各艦ニ直接關係アルモノハ
關係艦宛寫送付相成度

(第十九驅逐隊)

○事務所撤去
海軍西田部隊事務所ヲ一月二十日撤去セリ
追テ郵便物ハ横須賀鎮守府艦船部隊殘務整理班宛送
付相成度

海軍公報 (部内限) 第四千三百一號

昭和十八年一月二十七日(水)
海軍大臣官房

○感 狀

山田海軍飛行兵曹長ノ指揮セシ
軍艦神通水上偵察機

昭和十七年一月十七日「ダバオ」灣口ニ於テ對潛警戒ニ從事中同灣在泊我艦艇攻撃ノ爲來襲セル敵双發爆撃機六機ト遭遇スルヤ敢然トシテ單機克ク敵中ニ突入シ勇戦奮闘シテ其ノ一機ヲ擊墜シ被彈ノ爲偵察員操縦員相次デ斃レ電信員亦重傷ヲ負ヘルモ飽ク迄其ノ機ノ操縦ヲ續ケ遂ニ敵ノ企圖ヲ破推シタルハ其ノ忠烈顯著ナルモノト認ム

仍テ茲ニ感狀ヲ授與ス

昭和十七年十二月八日

聯合艦隊司令長官 山本 五十六

吳鎮守府第一特別陸戰隊

「アンボyna」攻略隊

昭和十七年一月三十一日敵ノ頑強ナル抵抗ヲ排除シテ

「アンボyna」島「ヒムトラ」海岸ニ強行上陸ヲ敢行シ爾后惡路密林ヲ冒シテ「ラハ」ヲ攻撃シ堅壘ニ據ル優勢ナル敵ニ對シ寡兵克ク勇戦數度ノ強襲ヲ決行シテ遂ニ頑敵ヲ擊破シ二月三日同飛行場ヲ占領確保シタルハ其ノ武勳顯著ナリト認ム

仍テ茲ニ感狀ヲ授與ス

昭和十七年十二月八日

聯合艦隊司令長官 山本 五十六

蘭印部隊

第三護衛隊

第七戰隊第二小隊及敷波

昭和十七年二月爪哇攻略作戦ニ際シ第十六軍主力ノ乘船セル船團ヲ上陸點爪哇島西部地區ニ護衛スルニ當リ各部隊ハ周到ナル計畫ト緊密適切ナル協同ノ下ニ屢來襲スル敵潜水艦飛行機ヲ擊攘シ特ニ三月一日未明船團泊地進入直後之ヲ奇襲セントシテ侵入シ來レル米濠巡洋艦二隻及驅逐艦二隻ヲ發見スルヤ各隊協力善戰奮闘

シ遂ニ敵ヲ殲滅シテ克ク護衛ノ任ヲ全ツセルハ其ノ功績顯著ナリト認ム
仍テ茲ニ感狀ヲ授興ス

昭和十七年十二月八日

聯合艦隊司令長官 山本 五十六

蘭印部隊

東方支援隊(妙高缺)
第一護衛隊(山雲缺)

第二水雷戰隊(第八、第十、
驅逐隊缺)

第二航空部隊

昭和十七年二月爪哇攻略作戦ニ際シ陸軍第四十八師團主力ノ乗船セル船團ヲ上陸點爪哇島「クラガン」泊地ニ護衛スルニ當リ各部隊ハ周到ナル計畫ト緊密適切ナル協同ノ下ニ屢來襲セル敵海空兵力ヲ撃破シテ克ク護衛ノ任ヲ完フセリ

就中二月二十七日午后船團爪哇海東部ヲ南下中敵巡洋艦五隻驅逐艦九隻ヨリ成ル蘭英米濠聯合艦隊ノ「スラバヤ」沖ヲ北上中ナルヲ發見スルヤ東方支援隊指揮官指揮ノ下ニ各隊ハ晝夜ニ亘リ反覆此ノ敵ヲ猛攻シ蘭巡洋艦「デロイテル」「ジャバ」ノ二隻及驅逐艦五隻ヲ撃

沈シ英巡洋艦「エクゼター」ヲ撃破シ他ヲシテ遁走セシメタル外更ニ泊地附近戰闘ニ於テ敵潜水艦約十隻ヲ撃沈シタルハ蘭印方面海上作戦ノ大勢ヲ決シタルモノニシテ其ノ功績顯著ナルモノト認ム
仍テ茲ニ感狀ヲ授興ス

昭和十七年十二月八日

聯合艦隊司令長官 山本 五十六

池田海軍兵曹長ノ指揮セル

特設運送船木曾川丸

昭和十七年二月七日未明補給任務ヲ以テ「アナンパス」諸島ヨリ西貢ニ向ケ單獨航行中「プロコンドル」燈臺沖ニ於テ敵浮上潜水艦二隻ト遭遇スルヤ劣弱ナル兵裝ヲ以テ敢然之ヲ攻撃シ乗員多數ノ死傷ニ届セズ遂ニ其一隻ヲ撃沈シ他ノ一隻ヲ撃破遁走セシメタルハ其ノ武勳顯著ナリト認ム
仍テ茲ニ感狀ヲ授興ス

昭和十七年十二月八日

聯合艦隊司令長官 山本 五十六

第八驅逐隊

昭和十七年二月十九日「バリ」島急襲攻略作戦ニ際シ

同日夜半「ロンボク」海峡ニ於テ我ガ上陸ヲ阻止セン
トシテ來襲セル敵巡洋艦二隻及驅逐艦五隻以上ト遭遇
スルヤ寡勢克ク勇戦忽チ敵驅逐艦四隻ヲ撃沈シ同巡洋
艦二隻及驅逐艦一隻ヲ撃破遁走セシメタルノミナラズ
爾后此ノ戦闘ニ於テ損傷ヲ受ケタル僚艦ヲ曳航翌晝間
ニ於ケル敵機ノ猛爆ヲ冒シテ之ヲ味方泊地ニ移シ遂ニ
救出ノ目的ヲ達シタルハ其ノ武勳顯著ナリト認ム
仍テ茲ニ感狀ヲ授與ス

昭和十七年十二月八日
聯合艦隊司令長官 山本 五十六

第六艦隊第二次特別攻撃隊

昭和十七年五月三十一日敵英國艦隊ヲ「デイエゴスワ
レス」灣及「シドニト」港ニ奇襲シ多大ノ戦果ヲ擧ゲ
帝國海軍軍人ノ忠烈ヲ克ク中外ニ宣揚シ全軍ノ士氣ヲ
振作シタルハ其ノ武勳拔群ナリト認ム
仍テ茲ニ感狀ヲ授與ス

昭和十七年十二月八日
聯合艦隊司令長官 山本 五十六

伊號第六百六十八潜水艦

昭和十七年六月七日「ミッドウエー」海戦ニ於テ同島

北方ニ損傷被曳航中ノ敵大型航空母艦一隻ヲ捕捉シ至
嚴ナル警戒網ヲ突破シ克ク之ヲ撃沈セルハ爾后ノ作戦
ニ寄與セル所大ニシテ其ノ功績顯著ナリト認ム
仍テ茲ニ感狀ヲ授與ス

昭和十七年十二月八日
聯合艦隊司令長官 山本 五十六

○ 辭 令

北海道廳技手 米山 富吉
徵用中自今月額八拾五圓ヲ給ス(海軍省)

(各通)

通信書記 梅本 秀雄
事務員 下田 幾次郎

第三海軍軍用郵便所員ヲ免ス(海軍省)
遞信屬 菅井 祿郎

第三海軍軍用郵便所員ヲ免ス(海軍省)
海軍大佐 堀江 義一郎

驅逐艦清波、特務艦足摺、第四十一號驅逐艦各審議
委員ヲ免ス

同 小山 敏明(艦本)
第四十一號驅逐艦審議委員ヲ命ス

同 佐藤 佐
第四十一號驅潛艇審議委員ヲ免ス

海軍中佐 松田 和夫(艦本)
特務艦足摺審議委員ヲ命ス

海軍少佐 坂上 五郎
特務艦足摺審議委員ヲ免ス(以上二名海軍艦政本部)

○雜款

○司令潜水艦變更
第七潜水隊司令ハ客年十二月十四日司令潜水艦ヲ伊號
第二潜水艦ニ變更セリ

○郵便物發送先
宛先ハ下段ノ通記載ノコト但シ()内ハ記載セザル
コト

- 一 矢風 横須賀局氣付(第十一軍用郵便所經由) 矢風
- 一 第二海軍輸送機隊 吳局氣付「セ武壹七〇」
- 一 第四防空隊 横須賀局氣付
- 一 傘婁丸 「ツ壹〇五ツ武武九」
横須賀局氣付(第十軍用郵便所經由) 傘婁丸

- 一 瑞鶴司令部、瑞鶴、瑞鳳、隼鷹司令部、隼鷹、金剛司令部、金剛、榛名、利根司令部、利根、阿賀野、野分、風雲、夕雲、卷雲、秋雲、雪風、初風

- 一 熊野司令部、熊野、嵐、舞風、時津風、谷風、濱風、浦風、磯風、秋月司令部、秋月

- 一 武藏
- 一 第一衛隊

○事務所設置
自崎艦裝具事務所ヲ本月十九日大阪鐵工所櫻島工場内ニ設置シ事務ヲ開始セリ

横須賀局氣付(第十軍用郵便所經由) 第三十五軍用郵便所經由)

- 一 瑞鶴司令部、瑞鶴、瑞鳳、隼鷹司令部、隼鷹、金剛司令部、金剛、榛名、利根司令部、利根、阿賀野、野分、風雲、夕雲、卷雲、秋雲、雪風、初風

横須賀局氣付(第十二軍用郵便所經由)

- 一 熊野司令部、熊野、嵐、舞風、時津風、谷風、濱風、浦風、磯風、秋月司令部、秋月
- 一 横須賀局氣付(第二十三軍用郵便所經由) 武藏
- 一 横須賀局氣付 「ツ壹武武ツ武武七」

海軍公報 (部内限) 第四千三百二號

昭和十八年一月二十八日(木)
海軍大臣官房

○通牒

官房備機密第七號ノ五

昭和十八年一月二十七日

海軍省 副官

各廳長 殿

郵便物ニ關スル件通牒

昭和十七年官房機密第二二八〇號通牒首題ノ件別冊郵便物ニ關スル例規中左記ノ通改メヲレ候

記

附錄部隊區別符表(其ノ一)中末尾ニ「第一衛所隊
ウ貳貳七」「第二衛所隊 ヲ貳貳八」「第四防空隊
ウ貳貳九」ヲ加フ
同(其ノ四)中「南西方面艦隊徵備輸送機隊 七六八」
ヲ「南西方面艦隊海軍航空輸送部 七六八」ニ改メ末
尾ニ「第二海軍輸送機隊 七七〇」ヲ加フ

艦本機密兵電第六五號

昭和十八年一月二十六日

海軍艦政本部總務部長

第四工作部長 殿

小型蓄電池用蒸溜水供給ノ件照會(機關長主管)
自今最寄艦船部隊(特設ヲ含ム)等ヨリ首題蒸溜水ノ
請求アリタル場合ハ便宜費部ヨリ供給ノコトニ取計相
成度

追テ之ガ關聯兵器ハ一月二十六日艦本機密兵電第六
四號ニ依リ貸與ノコトニ通牒セラレ候

艦本機密兵無線第四九號

昭和十八年一月二十七日

海軍艦政本部 長

各海軍軍需部長(特設ヲ除ク) 殿

兵器移管ノ件通牒(砲術長主管)
(通信長主管)

航空隊及航空基地用トシテ砲術長主管ヨリ供用中(貸)

海軍公報(部内限) 第四千三百二號 昭和十八年一月二十八日

八七

與ヲ含ム）ノ左記兵器ヲ通信長主管ニ保管轉換スベシ

記

品名	數量	記事
攜帶電話器 一、二型	全部	
中被覆線 改一	全部	

艦本機密兵無線第五〇號

昭和十八年一月二十八日

海軍艦政本部長

各海軍軍需部長（特設ヲ除ク）殿

水晶發振子保持器附着整理ノ件通牒（通信長主管）

首題ノ件左記ノ通附着整理スベシ

記

品名	附着數量	主兵器	記事
水晶發振子保持器	送信機ニ組ニ對シ二個	供用貸與在庫ノ水晶發振子ヲ使用スル短波並ニ特送信機（但シ在庫ノモノハ保持器ノ在庫限）	九七式短波六號送信機ニ對シテハ二個トス

○ 辭令

（各通）

海軍大佐 松崎 彰
 同 高橋 千集
 同 貞方 靜夫
 同 長澤 浩
 防備關係調査研究委員會一般委員ヲ命ス（二十七日海軍省）
 海軍中佐 大道 友雄

第四課勤務ヲ命ス

海軍技術大尉 南部 慶一

第二課勤務ヲ命ス（以上二十七日海軍省兵備局）

○ 雜款

○事務所移轉
 高知海軍航空隊（假稱）設立準備事務所ヲ一月十五日
 岩國海軍航空隊内ヨリ徳島海軍航空隊内ニ移轉セリ

○事務所撤去
 第二十四號掃海艇艇裝員事務所ヲ一月二十四日撤去セ

海軍公報 (部内限) 第四千三百三號

海軍大臣官房

昭和十八年一月二十九日(金)

○令 達

官房艦機密第四六一號
大東亞戰爭中艦船、特設艦船ノ船體、兵器、機關等ノ
新設、増設、撤去、換裝又ハ改造ノ工事ニ關シ左ノ通
定ム

昭和十八年一月二十九日

海軍大臣

一 艦船造修規則第七十六條、兵器造修規則第三十六
條、第三十七條又ハ昭和十七年官房機密第三〇七九號
第一號ノ規定ニ依リ船體、兵器、機關等ニ付新設、
増設、撤去、換裝又ハ改造ノ工事請求ヲ受ケタル海
軍工作廳長ハ其ノ内容ヲ調査シ工事ヲ行フ必要アリ
ト認ムル場合ニ在リテハ左ノ工事ニ限リ艦船造修規
則第七十七條及兵器造修規則第三十八條ノ規定ニ拘
ラズ適宜之ヲ處理スルコトヲ得
(イ) 船體、機關等
當該艦艇、特務艦艇ノ一般計畫要領書ニ掲ゲズ又

ハ之ニ變更ヲ來サザル如キ輕微ナル工事

(ロ) 兵器

(一) 當該兵器若ハ裝置ノ重要性能ヲ變更セザル如
キ輕微ナル附屬的兵器ノ新設、増設、撤去若ハ
換裝工事

(二) 當該兵器ノ計畫性能ヲ變更セザル機構ノ一部
ノ改造工事

二 海軍工作廳長ハ前號ノ規定ニ依リ施行スル工事ニ
關シ機關、兵器、艦裝品又ハ機關附屬品ヲ供給スル
必要アリト認ムル場合ニ在リテハ豫メ海軍艦政本部
長ニ協議スベシ
三、前二號ノ規定ハ雜役船及特設艦船ニ之ヲ準用ス

官房艦機密第四六二號

當分ノ間艦船工事進捗月報ハ艦船造修規則第十三條ノ
規定ニ拘ラズ海軍艦政本部長特ニ指示セル場合以外提
出又ハ送付セザルコトニ定ム
昭和十八年一月二十九日

海軍公報 (部内限) 第四千三百三號 昭和十八年一月二十九日

○通牒

海軍大臣

海人機密第三〇號ノ四

昭和十八年一月二十九日

海軍省人事局長

各鎮守府參謀長
各警備府參謀長
各艦隊參謀長
關係各所轄長

殿

記

實役停年計算期日、臨時考課表並ニ拔擢名簿調製期日及臨時考課表拔擢名簿
候補名簿進達(移牒)期限

臨時考課表、拔擢名簿及候補名簿ノ調製等ニ關スル件申進

海軍考課表規則及海軍武官任用進級取扱規則ノ諸規定ニ拘ラズ特務士官、准士官及上等下士官(豫備員ヲ含ム)ニ對スル臨時考課表、拔擢名簿及候補名簿ヲ左記ニ依リ調製進達(移牒)ノコトニ定メラレ候
追テ四月一日飛行科及整備科ノ准士官、上等下士官並ニ同出身ノ少尉ノ一部(以上豫備員ヲ含マズ)、五月一日上等下士官、六月一日特務士官及准士官ノ臨時任用進級ヲ實施ノコトトセララル豫定

特務士官			現官階	調製區分	實役停年計算期日	臨時考課表及拔擢名簿調製期日	臨時考課表及拔擢名簿進達(移牒)期限	候補名簿海軍大臣ニ進達期限
各科大尉	各科中尉	各科少尉						
昭和十七年十一月十五日以前進級ノ者	昭和十六年五月十五日以前進級ノ者	昭和十七年六月一日以前任官ノ者	現役員	各官階共現役員ト同等以上ノ現官ニ進級シタル者	二月二十八日	三月二日	三月十五日	四月十五日
各官階共現役員ト同等以上ノ現官ニ進級シタル者			召集員	過年(現官ニ進級シタル者)及現官トシテノ召集中ノ期間ヲ通算シタル者	但シ豫備員ニ在リテハ各官階ニ進級後ノ現官ニ進級後ノ			

備考 十一月十日任用進級實施者ニ對シテ臨時考課表及拔擢名簿ノ調製ヲ要ス	各料准士官 昭和十五年十一月一日以前進級ノ者	昭和中ノ勤務日數ニハ加算ヲ加ヘザルモノトスガ現役員ノ經過年ト同等以上ノ者	一月三十一日	二月一日	二月十五日
			昭和中ノ勤務日數ニハ加算ヲ加ヘザルモノトスガ現役員ノ經過年ト同等以上ノ者	昭和中ノ勤務日數ニハ加算ヲ加ヘザルモノトスガ現役員ノ經過年ト同等以上ノ者	昭和中ノ勤務日數ニハ加算ヲ加ヘザルモノトスガ現役員ノ經過年ト同等以上ノ者
<p>○辭令</p> <p>海軍技術會議議員海軍少將 河野 千萬城 海軍艦政本部技術會議議員ヲ命ス(二十七日海軍省)</p> <p>海軍技術會議議員海軍大佐 藤 間 良 海軍技術會議議員海軍中佐 佐々木 彰 海軍技術會議議員海軍少佐 佐藤 清忠</p> <p>(各通)</p> <p>海軍艦政本部技術會議議員ヲ命ス(二十七日同)</p> <p>海軍學生銓衡委員ヲ命ス 海軍武功調查委員ヲ命ス</p> <p>海軍少將 河野 千萬城 海軍少將 清田 孝彦 海軍少將 清田 孝彦</p> <p>海軍學生銓衡委員ヲ命ス 海軍武功調查委員ヲ命ス</p> <p>海軍少佐 寺井 義守</p> <p>海軍武官任用委員ヲ命ス 海軍豫備學生採用試驗委員ヲ命ス 海軍武功調查委員ヲ命ス</p> <p>海軍中佐 浮田 信家 海軍中佐 岡村 於菟彦 同 桑原 春雄 同 後藤 實二 海軍少佐 寺井 義守 海軍軍醫中佐 松村 吉之 海軍中佐 岡村 於菟彦 海軍中佐 岡村 於菟彦</p> <p>靖國神社合祀審査委員會(幹事)ヲ命ス(以上二十七日同)</p>					

海軍公報(部内限) 第四千三百三號 昭和十八年一月二十九日

第一課勤務ヲ命ス (三十五) 海軍省人事局)

海軍少佐 寺井 義守

○ 雜 款

○郵便物發送先

自今左ノ通發送相成度

司令宛

主計長宛

隊機關長、軍醫長宛

(第七驅逐隊)

潮 曙 漣

○事務開始

松山海軍航空隊 (假稱) 設立準備事務ハ客年十二月二十四日岩國海軍航空隊内ニ於テ之ヲ開始セリ

榆林地方海軍運輸部ハ所出張所ハ一月二十一日ヨリ日窒海南興業株式會社内ニ於テ事務ヲ開始セリ

○事務所撤去

驅逐艦清波艦裝員事務所ヲ一月二十五日撤去セリ

○取消

昭和十七年十二月一日附公報 (部内限) 辭令欄一二六一頁十行目「大森四郎」ノ辭令ハ取消

○正誤

一月二十六日附公報 (部内限) 辭令欄七九頁上段「春山洋一」ハ「青山洋一」ノ誤

○本日普通公報發行セズ

海軍公報 (部内限) 第四千三百四號

海軍大臣官房

昭和十八年一月三十日(土)

○ 令 達

官房需第一九號

當分ノ間兵備品取扱主任ヲ置カザル運送船(特設運送船、海軍徵備船等ヲ含ム以下同ジ)ノ乗員ニ給與スル糧食ハ左ノ各號ニ依リ整理スルコトヲ得

昭和十八年一月三十日

海 軍 大 臣

- 一 運送船ニ於テ海軍軍需部、特設海軍軍需部又ハ艦船部隊(以下供給廳ト稱ス)ヨリ糧食品ノ供給ヲ受ケントスルトキハ監督官(監督官ヲ置カザルモノニ在リテハ船長以下同ジ)ハ海軍兵備品會計規程書式第六號ニ依ル請永票二通、領收票一通及糧食品受入簿(様式第一)ヲ供給廳ニ提示スルモノトス
- 二 供給廳前號ニ依リ運送船ニ糧食品ヲ供給シタルトキハ領收票ニ依リ之ヲ消耗拂トシテ整理シ請求票中一通ハ之ヲ送付票ニ兼用シ他ノ一通ハ供給濟ノ旨ヲ

附記シ之ヲ在籍又ハ所屬ノ鎮守府又ハ警備府所在地ノ兵備品會計官吏ニ送付スルモノトス

- 三 運送船ニ於テ供食ノ爲糧食品ノ拂出ヲ爲ス場合ニ於テハ海軍給與令施行細則第二十表ノ基本食、昭和十二年官房第五三五一號及昭和十六年官房第三八四三號ノ品種量額ヲ基準トスルモノトス
- 四 運送船ニ於テハ糧食品受拂簿(様式第二)ヲ設ケ其ノ受拂ヲ明カニ爲スモノトス
- 五 運送船ノ監督官ハ毎月頭其ノ前月ニ於ケル糧食品ノ受拂(様式第三)ヲ在籍又ハ所屬ノ鎮守府又ハ警備府所在地ノ兵備品會計官吏ニ通報スルモノトス

附 則

本令ハ昭和十八年二月一日ヨリ之ヲ施行ス

(様式三葉添)

(參照) 昭和十二年官房第五三五一號(昭和一二、一〇、二一海軍公報生獸魚肉給與ノ件)
昭和十六年官房第三八四三號(昭和一六、七、二七海軍公報生獸魚肉、黃豆、鹽給與量額増減ノ件)

官房艦第五號

昭和十八年達第十一號機關附屬物標準ニ依ル定數過剩品又ハ不足品ハ左ノ各號ニ依リ處理スベシ

昭和十八年一月二十九日

海軍大臣

- 一 艦内搭載及陸上貯藏ノ機關附屬物ニシテ定數減少、削除等ニ依リ生ジタル過剩品ハ共通豫備品又ハ共通要具ノ項ヲ設ケラレタルモノニ在リテハ之ヲ全部共通豫備品又ハ共通要具ニ繰入レ然ラザルモノハ修理用材料トシテ本籍鎮守府又ハ警備府所屬ノ海軍工廠又ハ海軍工作部ニ保管スルモノトス但シ修理用材料トシテ保管ノ要ナキモノハ適宜處分スルモノトス
- 二 本標準ニ依リ數ニ設定又ハ追加セルモノニ對スル處理ニ關シテハ別ニ指示スル所ニ依ル

○通牒

軍務一機密第六八號

昭和十八年一月二十九日

海軍省軍務局長

關係廳長殿

商船及海軍徵備船搭載陸軍砲ノ修理ニ關スル件申進

商船及海軍徵備船搭載陸軍砲(銃)ハ商船陸軍徵備中等特別ノ場合ヲ除キ海軍制式兵器ニ準ジ各海軍工廠、各海軍工作部等ニテ修理施行ノコトニ定メラレ候條了知相成度

寫送付先 海務院長官

船運營會總裁

内令提
要登載

軍需糧第三號

昭和十七年軍需糧第二八號ハ昭和十八年一月三十一日限り自然消滅トス

昭和十八年一月三十日

海軍省軍需局長

(參照) 昭和十七年軍需糧第二八號(會計法規類集二卷八〇八ノ三二頁)

○辭令

(各通) 貳千百六拾圓

兼子 榮
千四百四拾圓 峯 金次郎
徵用中年額(各頭書ノ通)ヲ給シ部内限奏任官待遇

トス (昭和二十七年) 海軍省

鐵道官補 双木 重藏

同 會田 喜一郎

同 森田 榮太郎

同 加賀谷 政雄

同 鐵道省雇 久保 英男

同 道念 末松

同 伊藤 哲二

同 鈴木 庄次郎

海南警備府附ヲ免ス (昭和二十七年同)

海軍主計中尉 湯原 孝久

驅逐艦卯月ニ要スル給與及其ノ他ノ經費支拂ノ爲艦隊經費臨時分任出納官吏ヲ命ス (昭和二十七年同) 海軍省經理局長)

○ 雜 款

○郵便物發送先

自今左ニ依リ發送相成度

司令宛

軍醫長宛

電 報

隊機關長、主計長宛

(第六驅逐隊)

宛先ハ下段ノ通記載ノコト但シ()内ハ記載セザルコト

一 伊百二十一潛 横須賀局氣付(第十二軍用郵便所經由)伊百二十一潛

一 第二十八設營隊 横須賀局氣付(第十二軍用郵便所經由)

一 カリテヤ號 「ツ壹〇五ツ貳參〇」

一 第百三設營隊 吳局氣付(第二十五軍用郵便所經由)「七四五七六貳」

吳局氣付(第二十九軍用郵便所經由)「七貳四七七壹」

海軍公報(部内限)第四千三百四號 昭和十八年一月三十日

1965

(様式第一)

昭和 年度
糧 食 品 受 入 簿
船 名

(昭和十八年一月三十日海軍公報(部内限))

年月日	現 在 員	請 求 額	監 督 印	供 給 處	供 給 印	記 事
17 12 1	0名 (准士官以上 下士官兵員、 船)	貯糧品 0日分	印	横須賀 軍需部	印	
"	"	生糧品 0日分	印	"	印	
15	"	貯糧品 0日分	印	軍艦何々	印	
"	"	生糧品 0日分	印	"	印	

備考
一 監督官糧食品ヲ受入ントスルトキハ所要事項ヲ記入捺印シ請求票、領收票ト共ニ之ヲ供給應ニ提示
スルモノトス
二 供給應ハ海軍給與令施行細則第二十表ノ基本食、昭和十二年官房第五三五一號及昭和十六年官房第
三八四三號ノ品種量額ヲ基準トシテ請求數量ヲ調査シ係官檢印ノ上之ヲ供給シ本受入簿ハ監督官ニ返
却スルモノトス、
三 本受入簿ハ監督官之ヲ保管スルモノトス

1966

品名 (単位)

備考 品名毎ニ別口座トスルモノトス

年月日	摘要	受	拂	残

昭和 年度

(様式第二)

糧食品受拂簿

船名 /

(昭和十八年一月三十日海軍公報(部内限))

1967

(様式第三)

(昭和十八年一月三十日海軍公報 (部内限))

昭和 年 月 日

丸 監督官 何 某 ㊦

海軍軍需部兵備品會計官吏宛

昭和 年 月 分 糧 食 品 受 拂 通 報

品 名	單 位	受 入 高			拂 出 高	残 高	記 事
		前月ヨリノ 越 高	供給受高	計			
							(1) 一日現在乗員數 准士官以上 人 下士官及兵 人 船 員 人 、 、 、 人 計 人
							(2) 本月中ニ於ケル 供食延員數 准士官以上 人 下士官及兵 人 船 員 人 、 、 、 人 計 人